

# 海陽町における文書調査

—— 地方史班（徳島地方史研究会） ——

徳野 隆<sup>1\*</sup> 嵐 大二郎<sup>1</sup> 石尾 和仁<sup>1</sup> 菅野 将史<sup>1</sup> 金原 祐樹<sup>1</sup> 佐古 哲博<sup>1</sup>  
 須藤 茂樹<sup>1</sup> 西本沙知子<sup>1</sup> 宮本 和宏<sup>1</sup> 山口 幸歩<sup>2</sup>

**要旨：**海陽町域に残されている古文書の調査を通して、近世前期における浦の社会構造や、明治前期における地方神社制度等について考察する。

**キーワード：**鞆浦明暦・延宝棟付帳、渡り舟方、奥浦土田家（土佐屋）所蔵文書、佐藤家（宍喰八坂神社）文書、明治初期の神社合祀、日清戦争従軍祈念碑

## 1. はじめに

地方史班はこれまで調査対象市町村に残されていた旧役場文書や民間所蔵古文書などの整理・研究を行ってきた。今回の調査では、令和元年度には海陽町立博物館所蔵文書の整理を行い、棟付帳や検地帳、旧村役場文書など約350点の近世・近現代文書を確認し、目録作成と並行して部分的に写真撮影を行った。また、かつて廻船業を営んでいた奥浦地区の土田家（土佐屋）所蔵文書の調査も行った。令和2年度には宍喰八坂神社などの神主を務めていた佐藤家の旧蔵史料（海陽町立博物館所蔵）を整理し、約600点の近世・近代文書を確認し、目録作成と並行して写真撮影を行った。

今回の報告書では、これらの文書調査の一端を紹介する。

## 2. 鞆浦の明暦4年・延宝2年棟付帳について

### 1) 地域の歴史的概要

海陽町の鞆浦は隣接する奥浦とともに文安2年(1445)の「兵庫北関入船納帳」にその名が見える古い港町である。中世～近世初頭に存在していた海部城（鞆城）は鞆浦・奥浦という良港を見下ろす海

城としての性格を有し、阿波入国後の蜂須賀氏が設定した阿波九城の一つとして、海部郡の政治・軍事上の中心となっていた。一国一城令により海部城は廃城となるが、同城の周辺には上灘・下灘代官陣屋（後に郡代陣屋となり文化4年・1807に日和佐に移転）などが設けられていた。

### 2) 棟付改・棟付帳とは

棟付改は徳島藩独自の郷支配のための調査で、江戸時代を通して一般に明暦～万治期・延宝～天和期・正徳～享保期・明和～安永期（下調べ）・文化～文政期の5回実施されたとされており、その結果作成された郷支配のための帳簿が棟付帳である。2部作成され、ひとつは郡奉行（郡代）が、1部はその村の庄屋が保管する。現在残されているものは庄屋が保管していた分である。棟付帳の記載形式には時代によって若干の変化があるが、ここからは藩が郷分の状況のうち何をどのように把握していようとしていたかを推察できる可能性がある。

海陽町立博物館には鞆浦の明暦4年(1658)と延宝4年(1674)の棟付帳、及び棟付帳と同時に作成される文化10年(1813)の関連帳簿が残されている。ここでは明暦と延宝の棟付帳について考察してみよう。

<sup>1</sup> 徳島地方史研究会会員 <sup>2</sup> 四国大学大学院生

\* 〒770-0036 徳島県徳島市南佐古六番町 6-9

### 3) 明暦4年「海部郡之内鞆浦棟付人数改御帳」について

まず最初に明暦4年の「海部郡之内鞆浦棟付人数改御帳」の冒頭部分をここに挙げておく。

#### 鞆浦

高三斗 加子本役  
一壺家 与左衛門 歳五拾壺  
与左衛門子  
壺人 平十郎 同貳拾  
与左衛門子  
壺人 五郎 同七  
与左衛門子 九歳 同五ツ  
船四枚帆 壺艘  
与左衛門弟  
小家 九右衛門 歳四拾九  
高三斗五升 加子本役  
一壺家 半七郎 同三拾三  
(中略)  
牢人

小家 太郎 歳七拾五  
此者土州山田村<sup>より</sup>承応元年ニ半七郎をたより当  
浦へ参、半七郎影ケ（壺家の保護下にある者）  
に居申候  
(以下略)

ここに出てくる高はその家が保有する田畠や屋敷地などの生産力を米に換算したもので、これが年貢賦課の基準となる。壺家は独立した家で、小家は分家や元の下人など壺家の保護下にある者。壺家・小家は徳島藩独自の領民把握のシステムである。加子や牢人はその者の身居（身分）で、加子は藩の船を漕いだり加子役銀を納める義務を負うもので、浦として把握された港や漁村に独特の身居である。また、太郎のように必要に応じてその家に関する注記が施されている。なお、棟付帳に女性が記載されるようになるのは文化～文政期からである。

明暦4年の棟付帳によると、この時点の鞆浦の家数は387軒（内壺家は147軒）で人数は773人（女性は除く）。持高の最高は4艘の船を保有し7人の下人を抱え、浦の年寄役を務める加子本役次右衛門の3石5斗5升。ほとんどが1石未満で、鞆浦の再生産が農業ではなく漁業や海運業に支えられていたことがうかがわれる。農村部なら飼育牛馬が記載さ



図1 明暦4年鞆浦棟付帳（表紙）

れている部分に、各人が所有する船の大きさと数が記載されていることも浦の特徴である。棟付帳の末尾には全体で112艘の船があることになっているが、実際に内容が把握できた88艘をまとめたものが表1である。当時の船の大きさは帆の大きさで表される場合が多いが、漁船として使用された可能性が高い三枚帆・四枚帆の小型船が36艘。残りは廻船として使用された可能性が高い比較的大型の船（最大は十七反帆）となっている。

明暦4年に鞆浦には79人の鞆浦以外からの来人が記載されている。最も多いのが土佐国からの38人（内10人が野根＝現安芸郡東洋町）で、隣国土佐との活発な人的交流がうかがわれる。阿波国内からの来人は20人で、そのうち5人が徳島城下からとなっている。

この明暦4年の棟付帳には「弥五左衛門塩焼」との肩書きを付されている者がある。この弥五左衛門は十六端帆・十五端帆・十端帆の3艘の船を所持し、浦内の有力者であると思われる人物である。この弥五左衛門の下人右次右衛門は「那佐作子置申候」とされ、同人が管理していたと思われる「塩屋」には6人の「弥五左衛門塩焼」と一部はその家族が生活している。この「弥五左衛門塩焼」のうち一人は明暦元年に土佐国安芸郡からの、もう一人は明暦2年に備前国岡山からの来人との記載がなされてい

表1 明暦4年 鞆浦船数

船種	船数
17端帆	1
16端帆	1
15端帆	2
14端帆	4
13端帆	2
12端帆	4
11端帆	3
10端帆	8
9端帆	9
8端帆	4
7端帆	10
6端帆	3
5端帆	1
4枚帆	20
3枚帆	16
船数合	88



図2 明暦4年鞆浦棟付帳より「塩焼」記載部分

る。詳細は不明であるが、この時点で浦内の有力者が那佐湾において製塩に従事しており、その労働力として阿波国内外からの来人も雇われていたことがわかる。なお、塩屋の管理者であった右次右衛門は弥五左衛門の下人であるから彼に付属する小家となるべきである。しかし、なぜか他の弥五左衛門下人とともに、徳島城下から商売で訪れて鞆浦に居着き、弥五左衛門の世話で同浦の加子本役となった（住居も弥五左衛門屋敷）作右衛門の小家に付されている。

この間に何らかの事情があったと思われるが、詳細は不明である。

#### 4) 延宝2年「海部郡之内鞆浦棟付人数御改帳」について

この16年後に延宝2年「海部郡之内鞆浦棟付人数御改帳」が作成されるが、ここには各人が所持する船に関する記載が無くなる。一方、明暦の棟付帳にはなかった「渡り舟方」と把握された人々が57人登場する。彼らの詳細も不明であるが、「渡り歩く舟人」という意味であろうか。このうちの何人かは家族を形成している。この時点での鞆浦の人口は827人であるが、このうち57人が「渡り舟方」と肩書きを付されている。この内阿波国出身者は21人で、17人が鞆浦出身者である。他国出身者の最多は土佐国の25人で、その内野根からは8人。土佐に次いで多いのが和泉国（現大阪府）貝塚の5人である。このような記載方針の変更は、藩が浦方を把握するにあたっての視点が変化したことを示すが、その詳細はこれからの課題となる。明暦棟付帳にあった那佐での「塩焼」に関する記述も延宝棟付帳にはない。弥五左衛門及びその子孫が製塩業から撤退した可能性も考えられるが、これらについてもこれからの課題

としたい。

#### 5) 小総

先にも述べたように棟付改は徳島藩独自の調査で、その結果作成される棟付帳は当時の村落の状況を知る史料として、また、徳島藩が村落をいかに把握・支配しようとしていたかを考察するための史料として多くの研究蓄積が積み重ねられてきた。しかし、それはあくまで農村の棟付帳が中心であった。その意味でも、海陽町立博物館が所蔵している鞆浦や奥浦の棟付帳等の帳簿類は、未開拓の側面が多い浦方の実態を究明する上での重要な意味を持つものといえる。

## 2. 土田家（土佐屋）所蔵文書について

奥浦地区土田家には近世・近代の文書が残されているが、今回の総合学術調査では海陽町立博物館の紹介により、その一部を調査することができた。金融関係や所有する船毎の「買物帳」などの近世・近代の経営文書や村政文書などが残されていた。それらのうちの3点の文書をここでは紹介したい。

#### 1) 「【破損】（南京か）之商船遭難風二豆州八丈嶋江漂着【破損】二よつて浦々へ廻来ル御触書写」

宝暦3年（1753）12月、長崎を目指していた中国南京の商船が遭難して八丈島に漂着。救助された乗組員は幕府の手によって長崎に送られ、そこから帰国の途についた。この文書は、この中国の漂流民を乗せた船に万一のことがあった場合の救助等を、諸国の浦々に命じた幕府の通達、及びそれを受けた徳島藩からの通達の写しである。外国船が漂着した時の対応の一端を示す史料である。ここでは船が大破したために乗員のみの送還であるが、船が無事な場合はその船も長崎へ回航していた。度々漂着する外国の難破船への対応は大きな負担となっていた。なお、南海道（四国・淡路・紀伊）への通達は、小豆島を管轄していた幕府の倉敷代官所が担当していた。

#### 2) 「良遷院様御葬礼二付 土州様々為御代香御使者御越被遊候控」

文化11年（1814）に徳島藩第11代藩主蜂須賀治昭（良遷院）の葬儀が執り行われるが、この葬儀に藩主の名代として参列する土佐藩関係者の宿泊に関する徳島藩からの通達の写しである。土佐藩の使者が小休・昼食・宿泊する個人宅や寺院などが記され、食事や寝具、人夫の手配などが事細かに指示されて





図3 良遷院様御葬礼二付 土州様を為御代香御使者御越被遊候控より小休・昼休・泊の部分

いる。藩主やその一族、幕府巡見使の接待・対応は村浦の負担となっていた。

### 3) 太守様淡州より(原与右衛門通達)

土田家(土佐屋)所蔵文書の中には、同家がふすまの下張りとして使っていたと思われる断片的な文書が残されている。そのうちのひとつを紹介してみたい。

太守様淡州へ

御帰懸明廿六日森甚五兵衛方へ被為

入候付而ハ、小鯉・鮪子等之〇〇ニ相成候真鯛小平子之類取揚活候而、籠とも明日中ニ椿泊浦迄漕参可申候、若又明日中ニ難出来義ニ候へハ、明後日迄ニ無間違漕参候様可遂手配候、以上

原与右衛門

九月廿五日

牟岐・浅川・鞆

右浦々

役人共方へ

(〇〇は難読文字)

徳島藩の役人である原与右衛門が牟岐・浅川・鞆の各浦に出した通達の写しである。一部難読文字が含まれるが、太守様(藩主)が淡路国からの帰りがけに椿泊浦(現阿南市)にある森甚五兵衛(藩の中老で水軍の長)の陣屋に立ち寄るので、そこで行う釣りのえさとなる真鯛平子などを獲って、活きたままで明日か明後日には椿泊浦へ届けよ、というものである。この文書の年次は書かれていないが、徳島藩の正史である『阿淡年表秘録』によると、天保13年9月26日に藩主蜂須賀家斉が淡路国から海路椿泊浦の森甚五兵衛宅へ入ったという記事がある。蜂須賀家臣成立書(徳島大学附属図書館蔵)によると、

この時点で原与右衛門長興は海部・那賀郡代を務めており、この文書はこの時の通達の写しと見て間違いない。藩主の釣りの餌を調達することも海部郡の漁村が負っていた役のひとつであったことを示す興味深い資料である。

### 4) 小括

土田家(土佐屋)はかつて奥浦を拠点に廻船業を営んでいたとされている。今回詳細な検討は出来なかったが明治中期に同家が所持・運行していた複数の船毎の「買入帳」が残されており、同時期の地方における廻船業者の経営実態を探る上での貴重な史料といえる。また、今回紹介した3点の文書の他に、近世後期の海難事件に関する報告書や、明治10年代の「徳島県達(徳島県報の前身)」の抜粋なども残されていた。これらのことから、土田家が廻船業と並行して浦役人も務めていたことがうかがわれる。史料の残存状況がやや断片的であるが、残された庄屋文書類が比較的少ない海部郡において興味深い文書群であるといえる。

## 3. 佐藤家(穴喰八坂神社)文書について

穴喰八坂神社は海陽町久保に鎮座する旧郷社である。地域では「日本三祇園の一社」とされ、同社の祇園祭が国の「記録作成等の処置を講ずべき無形の民俗文化財(記録選択)」に、祇園祭の山鉾行事が県の無形民俗文化財に指定されている。江戸時代には海部郡若松村(現海陽町)の御崎神社(旧村社)の、明治初期からは穴喰八坂神社の神主を務めていた佐藤家の文書は現在海陽町立博物館に寄贈されている。今回整理した佐藤家文書約600点のうち、明治初期の神社合祀にかかわる文書と、日清戦争従軍祈念碑にかかわる文書を紹介する。

### 1) 明治初期の神社合祀関係文書について

慶応4年(明治元年・1868)の神祇官復興や神仏分離令を皮切りに、明治政府は神道国教化に乗り出していく。その流れの中で明治4年(1871)に「神社は国家の祭祀である」との太政官布達が出され、神社の公的性格

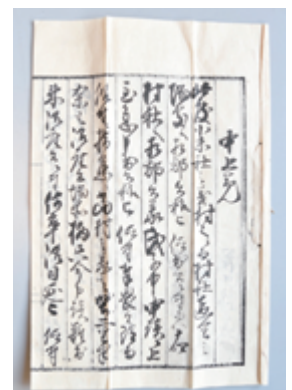


図4 申上覚(小川村合祀日延願 冒頭部分)

が確定する。それと同時に社格が定められ、各神社は官社（神祇官のまつる官幣社と地方官のまつる国幣社）と諸社（府県社－郷社－村社）及び村社の基準に達しなかった無格社に分けられていく。

このような近代社格制度の整備が進められていった明治6年（1873）、小川村（現海陽町）から出された次のような願書が佐藤家文書に残されていた。

申上覚

此度小末社之義、村々ニ而村社適宜之場所へ相都候様被 仰出候ニ付而ハ、右村社へ相都候義氏子中申段候上、至急申出候様被 仰付奉畏候、随而、作付ニ指懸り、当村之義者豎二里半余も御座候場所柄、只今申談難出来御座候ニ付、何卒御日延被 仰付被為下候得者難有仕合ニ奉存候、依而此段書付を以奉申上候 以上

第八大区第四小区小川村氏子惣代

中野清三郎 ㊞

癸酉（明治6年）五月

田中義喜蔵 ㊞

田倉八三郎 ㊞

谷口源次 ㊞

的田利三郎 ㊞

前川伊太郎 ㊞

松尻徳蔵 ㊞

若松村神主

佐藤為古殿

右氏子之者申上通相違無御座候ニ付、奥書仕指上申候 以上

同村年番

奥村織太 ㊞

佐藤為古殿

ここに登場する大小区制は明治5年から12年まで採用されていた行政区画で、第八大区は海部郡にほぼ相当する。この文書は村内の小社（無格社）を村社に統合せよという命令に対して、これから作付けの時期にもかかる上、当村は端から端まで2里半（約10km）もありすぐには相談が出来ないという理由を挙げての日延べ願いである。ほぼ同時期に同じく第八大区に属する平井村（現海陽町）が提出した同様の日延べ願いが残されており、他にもあった可能性もある。

小規模な神社の合祀といえは明治末期に断行されたものが有名であるが、明治初期にも同様のことが

行われていた。この文書からは長年の伝統を無視する上からの合祀に抵抗する氏子＝地域住民の姿を見て取ることができる。この願書は徳島県では十分に研究の進んでいない明治初期の神社合祀に関する興味深い史料といえる。

このような社格制度や神社合祀の他にも、明治5年（1872）、政府は国民教化を目的とした教導職を設置し、神官や僧侶などを任命（明治17年廃止）。明治8年（1875）には全国の神道諸派を結集させた神道事務局（神社本庁の前身団体のひとつ）が組織された。明治15年（1882）には神道事務局生徒寮を独立させて皇典講究所（國學院大学・日本大学・近畿大学等のルーツ）の開設など、明治前期にはめまぐるしい神社制度の改革がなされている。佐藤家文書の中には、これらに関する通達や提出文書などが豊富に残されており、在地の視点からこの時期の神社制度を考える上での貴重な史料といえる。

## 2) 日清戦争従軍祈念碑について

宍喰八坂神社の境内には、明治30年（1897）に建設された「明治二七八年従軍祈念碑（日清戦争従軍祈念碑）」が建っている。日清戦争には旧宍喰町域からは陸海軍あわせて29名が従軍し、4名の戦死者が出ている。この祈念碑は看護卒（調剤手）として従軍した佐藤幸雄ら3名の従軍者が発起人となって建設されたものであるが、佐藤家文書にはその関係史料が一括して残されている。このなかには祈念碑の趣意書や概略図、陸軍徳島連隊区との交渉過程がわかる書簡などがある。そこからは、祈念碑の揮毫者として発起人たちは当初、陸軍参謀総長や日清戦争時の征清大総督など歴任した陸軍大将（後に元帥）小松宮彰仁親王を希望していたが難航。最終的には陸軍大将野津道貫（日清戦争における第一軍司令官・伯爵）に落ち着いていった顛末なども記録されている。

日清戦争は近代日本にとって最初の本格的な対外戦争であったが、この戦争を通して民衆のナショナリズムが高揚し、民衆が「国民」として統合される機運を作ったともいわれている。宍喰八坂神社境内の従軍祈念碑は、そのような動きの地域における一事例といえる。

## 5. おわりにかえて

過疎化や少子高齢化による地域コミュニティ崩

壊の危機が叫ばれて久しいが、それは同時に地域の歴史を伝える古文書や役場文書の歴史史料が消滅する危機でもある。そのような意味において、その地域に暮らした人々の生きた証を伝える担い手として、その地域の博物館や資料館の持つ意味は大きいと言える。今回我々地方史班（徳島地方史研究会）は、海陽町立博物館所蔵資料と同館ご紹介の地域古文書の整理をさせていただいた。海陽町における歴史史料の保存と活用の拠点たる同館のお手伝いには

んの少しでもなれば幸甚である。

最後になりましたが、調査に全面的にご協力をいただいた海陽町立博物館の関係者の皆様、貴重な史料を残していただいた原所蔵者の皆様に、心からお礼を申し上げます。（文責 徳野隆）

#### 参考文献

宍喰町教育委員会編（1986）：『宍喰町誌』 宍喰町教育委員会  
徳島県神社庁教化委員会編（2019）：『徳島県神社誌』 徳島県神社庁

Research of archives in Kaiyo Town, Tokushima, Japan

TOKUNO Takashi\*, ARASHI Daizirou, ISIO Kazuhito, KANNO Masashi, KINBARA Hiroki, SAKO Tetsuhiro, SUDOU Shigeki, NISIMOTO Sachiko, MIYAMOTO Kazuhiro and YAMAGUCHI Yukiho

\* 6-9, Minamisakorokubancho, Tokushima 770-0036, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No. 63 (2021), pp. 107 – 118.

表2 海陽町立博物館所蔵文書目録（令和元年度調査分）

資料番号	表題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
A-1-1-1	今度打直御検地被 仰付、古長拾四冊奥書加在所残置也	不明		不明		縦帳 表題のみ一枚
A-1-1-2	堂ノ後 上々田 式畝拾八歩	不明		不明		縦帳 検地帳の内一枚
A-1-1-3	寺田 上田 壹畝三步	不明		不明		検地帳の内一枚 付紙2枚あり
A-1-1-4	覚	不明		不明	不明	虫損にて開けず
A-1-1-5	溜池 六畝廿六歩	不明		不明	不明	縦帳 地所明細帳の一部
A-1-1-6	□□（阿波）御国海部郡（新開検地帳）	正徳4年正月	1714	龜田八郎左衛門外2名		虫損により開帳難
A-1-1-8	同所南吉勾溝有 上下田 三畝拾八歩	不明		不明		縦帳 検地帳の一部 開帳難
A-1-1-9	家ノ西 東西式拾六間 幅四間 旧御数	不明		不明		縦帳 名負林下札帳の一部
A-1-1-10	大里村（検地帳）	不明		不明		縦帳 虫損により開帳不可
A-1-1-11	（検地帳）	□□12年11月		板東三左衛門		縦帳 虫損により開帳難
A-1-1-12	同所 中下田 三畝式拾壹歩	不明		不明		縦帳 検地帳の一部
A-1-1-13	塩田久太夫（検地帳の末尾）	不明		塩田久太夫外2名		縦帳 検地帳の一部（2枚）
A-1-1-14	右者此度依願逐見分	明治4年6月	1871	准史生 木内扶二 外1名	熟田村願人共方	縦帳 名負下札帳の一部
A-1-1-15	同所 中下田 九歩 三升	不明		不明		縦帳 検地帳の後半部 虫損により開帳不可
A-1-2	鯖瀬傍示御年貢名寄帳	明治元年11月	1868	不明		横帳
A-1-3	海部中学校第二木建設関係一括	昭和25年より	1950			一括資料
A-2-1	海部郡浅川村栗浦傍示御検地御帳	寛政10年9月	1798	岸孝左衛門外2名		縦帳 虫損 付箋有
A-2-2	海部郡浅川村鯖瀬傍示御検地御帳	寛政10年9月	1798	岸孝左衛門外2名		縦帳 虫損 付箋有（大正2年民政資料展覧会出品票あり）
A-2-3	海部郡浅川村伊勢田下傍示御検地御帳	寛政10年9月	1798	岸孝左衛門外2名		縦帳 虫損 付箋有（大正2年民政資料展覧会出品票あり）
A-2-4	海部郡浅川村伊勢田上傍示御検地御帳	寛政10年9月	1798	岸孝左衛門外2名		縦帳 虫損 付箋有
A-2-5	海部郡浅川村稲浦上傍示御検地御帳	寛政10年9月	1798	岸孝左衛門外2名		縦帳 虫損 付箋有（大正2年民政資料展覧会出品票あり）
A-2-6	海部郡浅川村御検地御帳之分	文政13年12月	1830	庄野悦郎外3名		縦帳 虫損 付箋有（大正2年民政資料展覧会出品票あり）
A-2-7	阿波国海部郡浅川村浦検地帳	明治4年5月	1871	史生 武市嘉源太 外1名		縦帳 虫損 付箋有（大正2年民政資料展覧会出品票あり）
A-2-8	海部郡浅川村浦出来御林株数仕出帳	文政12年正月	1829			縦帳
A-2-9	（海部郡大里村新開御検地帳）	不明				縦帳 虫損甚大 題箋外れ 一部不開 綴紐切れ
A-2-10	（海部郡大里村新開御検地帳）	宝永5年11月	1708	伊月惣左衛門外2名		縦帳 虫損甚大 題箋外れ 綴紐外れ
A-2-11	（海部郡大里村而瀬浦与兵衛被下開地）	（宝永）				縦帳 虫損甚大 題箋外れ 綴紐外れ
A-2-12	海部郡津川村名負数下札帳	明治4年5月	1871	史生 今井峯蔵外1名	海部郡浅川村願人共・同村役人共	縦帳 虫損有（大正2年民政資料展覧会出品票あり）
A-2-13	海部郡浅川浦傍御検地相附帳	嘉永5年11月	1852	三木繁右衛門 外3名		縦帳 付箋有
A-2-14	海部郡浅川村傍御検地相附帳	嘉永5年11月	1852	三木繁右衛門 外3名		縦帳
A-2-15	海部郡浅川村鯖瀬傍示田畠地味相劣見分奉願上帳	慶応4年4月	1868	浅川村庄屋 丸岡岡吉 外5名	三木源之助 外2名	縦帳
A-2-16	海部郡浅川浦野山御検地負御下札之写	安永3年8月	1774	庄屋・五人組	奥村喜右衛門	縦帳 明和5年作成の帳面の写
A-2-17	海部郡浅川村栗浦傍示田畠地味相劣御見分奉願上帳	慶応4年4月	1868	浅川村庄屋 丸岡岡吉 外5名	三木源之助 外2名	縦帳
A-3-1	小学理科 巻二	明治33年9月	1900	編者 学海指針社		
A-3-2	実験 日本修身書 巻四 尋常小学生徒用	明治26年6月	1893	著作者 渡邊政吉		
A-3-3	新編 算学稽古大全	文化5年発行 嘉永2年再販	1849	波速松岡		
A-3-4	小学国語読本 巻六					
A-3-5	阿波国海部郡熟田村御検地帳	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳
A-3-6	阿波国海部郡大里村御検地帳	寛政元年11月	1789	武市長左衛門 外2名		縦帳 虫損多



資料番号	表 題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
A-3-7	海部郡大里村仮御検地相附帳	嘉永5年11月	1852	山内理兵衛 外□名		縦帳の一部 虫損 順不同
A-3-8	海部郡大里村仮御検地相附帳	不明				縦帳の一部
A-3-9	享保十一年新開	享保11年3月	1726	多田源右衛門 外4名		縦帳 虫損多
A-3-10	海部郡大里村請損量帳	慶応2年5月	1866	岸道三郎		縦帳 虫損多
A-3-11	海部郡大里村畠田成増米帳	明治3年5月	1870	武市嘉源太 外3名		縦帳 虫損有
A-3-12	海部郡浅川浦名負林下札帳	明治4年6月	1871	史生 今井峰蔵 外1名	海部郡浅川村願人共方	縦帳
A-3-13	海部郡吉野村御林名負下札	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二外1名	吉野村願人共方	縦帳
A-3-14	海部郡大里村御検地帳 (外1冊)	嘉永6年11月	1853	岸道三郎 外1名		縦帳 虫損甚大のため、外一冊あるも分離不可
A-3-15	海部郡四方原村新開御検地帳	享保10年3月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損有
A-3-16	表題不明・海部郡吉野村名負林御検地帳	文化元年11月 文化11年10月	1804・ 1814	森三五左衛門 外2名・ 山下伊賀右衛門 外1名		縦帳二冊 虫損甚大のため二冊の分離不可 一冊目の表題不明
A-3-17	海部郡熟田村小松分御検地帳	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳 虫損多
A-3-18	海部郡吉野村新開御検地帳	宝永5年11月	1708	伊月惣左衛門 外2名		縦帳 虫損有 題箋なし
A-3-19	海部郡吉野村新開御検地帳	明和9年3月	1772	多田惣右衛門 外4名		縦帳 虫損有 題箋なし
A-3-20	海部郡吉野村御検地帳	寛政6年11月	1794	三木直蔵 外2名		縦帳 題箋なし 虫損有 表紙に鉛筆書きで「寛政六年吉野村御検地帳」とある
A-3-21	海部郡熟田村御検地帳	寛政6年11月	1794	三木直蔵 外3名		縦帳 題箋なし 虫損有
A-3-22	阿波御国海部郡吉野村新開御検地帳	享保10年3月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損有
A-3-23	海部郡吉野村郷鉄炮北側善次郎二被下分御検地帳	享保3年2月	1718	亀田八郎左衛門外3名		縦帳 虫損有 題箋なし
A-3-24	阿波御国海部郡吉野村御検地帳	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳 虫損有
A-3-25	海部郡吉野村新開御検地帳	正徳3年4月	1713	近藤団十郎 外2名		縦帳 虫損有 題箋なし
A-3-26	海部郡吉野村之内納浦善兵衛被下開地御検地帳	元禄16年12月	1703	箕浦久左衛門 外2名		縦帳 虫損大 題箋なし
A-3-27	海部郡吉野村名負数下札	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二 外1名	海部郡吉野村役人共方	縦綴り 虫損多 題箋なし
A-3-28	海部郡大里村新開御検地帳	享保7年3月	1722	近藤直左衛門 外3名		縦帳 虫損多 表紙欠
A-3-29	海部郡大里村御検地帳	安永7年3月	1778	青山易之平? 外2名		縦帳 題箋あるも虫損にて「安永七年□□元・・・」しか判読不可能
A-3-30	阿波御国海部郡大里村数開御検地帳	弘化3年5月	1846	塩田幸蔵 外2名		縦帳 虫損有
A-3-31	海部郡大里村数開新開御検地帳	元禄16年6月	1703	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損大 表紙に題箋あるも虫損にて判読不可能 表紙に「元禄拾六年 新開御検地帳」とある
A-3-32	阿波御国海部郡大里村新開御検地帳	宝永2年4月	1705	三木繁右衛門 外2名		縦帳 虫損大 表紙に「宝永式年新開」とあり
A-3-33	阿波御国海部郡大里村新開御検地帳	享保19年3月	1734	川端実右衛門 外3名		縦帳 虫損甚大
A-3-34	阿波御国海部郡大里村二而納浦善兵衛被下開地御検地帳	宝永2年4月	1705	東条清左衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
A-3-35	阿波御国海部郡大里村新開御検地帳	享保10年3月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 表紙に「享保十年御帳」の貼紙有
A-3-36-1	海部郡大里村新開御検地帳	正徳2年3月	1712	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 A-3-36-2と合綴 虫損甚大
A-3-36-2	海部郡大里村御検地帳 (外1冊)	正徳3年4月	1713	近藤団十郎 外2名		縦帳 A-3-36-1と合綴 虫損甚大
A-3-37	海部郡大里村打直検地帳	不明		不明		縦帳 後部欠 虫損甚大
A-3-38	海部郡熟田村御検地帳	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳 虫損有 題箋なし 表紙にマジックで「延享四年 熟田村御検地帳」と記載あり
A-4-1	海部郡浅川浦出来御林株数仕出帳	嘉永6年10月	1853	浅川浦庄屋御用代池内久四郎外5名	奥村甚内	縦帳 鉛筆で書き込みが裏表紙にあり
A-4-2	(吉野村夫役帳)	文政3年12月	1820	楠本官八 外2名		縦帳 虫損大 題箋欠 表紙にペンで標題書き込み
A-4-3	享保拾貳未年海部郡吉野村棟付御改御鉄炮帳	享保12年3月	1727	海部郡吉野村庄屋利右衛門 外4名	岩田茂左衛門	縦帳 虫損有 綴じ紐外れを補修
A-4-4	海部郡之内熟田村百姓夫役帳	延宝2年12月	1674	岩田関右衛門 外2名		縦帳 虫損有
A-4-5	享保拾貳未年海部郡相川村棟附人数御改帳写	享保12年6月	1727	岩田茂左衛門 外2名		縦帳 虫損有
A-4-6	享保拾貳未年海部郡相川村棟附人数御改帳	享保12年6月	1727	岩田茂左衛門 外2名		縦帳 虫損有
A-4-7	享保拾貳未年海部郡吉野村棟附人数御改帳	享保12年6月	1727	岩田茂左衛門 外2名		縦帳 虫損有
A-4-8	享保拾貳未年海部郡浅川村棟付人数御改帳	享保12年6月	1727	岩田茂左衛門 外2名		縦帳 虫損有
B-1-1	海部郡之内納浦棟付人改御帳	明暦4年6月	1658	林大学 外2名		縦帳 ※「農学士 二野瓶徳夫」の名刺挟み込み
B-1-2	文化十四年 海部郡奥浦棟付御改御判形人衆御帳	文化10年	1813	高木真蔵 外2名		縦帳 B-1-3, B-1-4, B-1-5と合綴
B-1-3	文化十四年 海部郡奥浦棟附人数御改帳	弘化4年6月	1847	高木真蔵 外2名		縦帳 B-1-2, B-1-4, B-1-5と合綴
B-1-4	文化十四年 海部郡奥浦棟附御改見懸銀御帳	弘化4年6月	1847	高木真蔵 外2名		縦帳 B-1-2, B-1-3, B-1-5と合綴
B-1-5	文化十四年 海部郡奥浦棟付御改御支配外帳	弘化4年6月	1847	高木真蔵 外2名		縦帳 B-1-2, B-1-3, B-1-4と合綴
B-2-1	め□作会 (句集)	不明		不明		冊子体
B-2-2	式礼座席小謡	不明		不明		刊本
B-2-3	小笠原諸礼大全	不明		不明		刊本 上下巻合綴
B-2-4	海部郡之内浅川浦棟附人改御帳	明暦4年7月	1658	林大学 外2名		縦帳 虫損少
B-2-5	(海部郡平井村棟付帳)	天保6年12月	1835	海部郡平井村五人組市太郎 外3名	美馬勝蔵 外2名	縦帳 文化九年棟付帳の清帳 奥書有 付箋有 虫損有
B-2-7	文化九年海部郡熟田村棟附御改百姓夫役帳	文政元年12月	1818	楠本官八 外2名		縦帳 貼紙有 虫損有
B-3-1	浅川村検地帳力					縦帳 虫損有 表紙・裏表紙欠
B-3-2	浅川村検地帳力					縦帳 表紙・裏表紙外れ 綴じ紐外れ
B-3-3	(地所明細帳)	(明治期)				縦帳 虫損大
B-3-4	地所明細帳	(明治期)		阿波国海部郡大里□(村力)		縦帳 虫損大

資料番号	表 題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備 考
B-3-5	享保三年御帳	(享保3年)	1718			縦帳 虫損甚大で不開 表紙に「享保三年相川村新開御検地帳」との後世の貼紙有
B-3-6	(平井村新開御検地帳)	(宝永期)				縦帳 題箋外れ 虫損甚大不可 「宝永□□平井村新開御検地帳」との後世の貼紙あり
B-3-7	(相川村新開御検地帳)	(宝永6年)	1709			縦帳 題箋外れ 虫損甚大不開 「宝永□□相川村新開御検地帳」との後世の貼紙あり
B-3-8	(相川村新開御検地帳)	(元禄7年4月)	1694			縦帳 題箋外れ 虫損甚大不開 「元禄七年四月二十三日海部郡相川村新開御検地帳」との後世の貼紙あり
B-3-9	(海部郡相川村新開御検地帳)	(元禄13年)	1700			縦帳 題箋外れ 虫損甚大不開 「元禄十三年海部郡相川村新開御□□□」との後世の貼紙あり
B-3-10	阿波御国海部郡相川村新開御検地帳	(元禄拾□年)				縦帳 虫損甚大不開 「元禄拾□年 海部郡相川村新開御検地帳」との後世の貼紙あり
B-3-11	阿波御国海部郡相川村御検地帳	寛政9年	1797			縦帳 虫損甚大不開 「海部郡相川村御検地帳 寛政九年」との後世の貼紙あり
B-3-12	阿波御国海部郡相川村御数下□(見か)小川貞右衛門	寛延3年11月	1750			縦帳 虫損甚大不開 後世の貼紙あり
B-3-13	海部郡相川村棟附就御改御譜代帳	享保12年□月	1727			縦帳 虫損甚大不開 B-3-14と張り付き
B-3-14	享保拾貳末年海部郡相川村棟附改御鉄炮者帳	(享保12年)	1727			縦帳 虫損甚大不開 破損 B-3-13と張り付き ※「享保十貳年 海部郡相川村棟附改御鉄炮者帳」との後世の貼紙有
B-3-15	(海部郡相川村上毛帳)	(元禄2年)	1689			縦帳 虫損甚大不開 ※「元禄二年□月二十三日 海部郡相川村上毛帳」との後世の貼紙あり
B-3-16	川東村外三村学校組合規程	大正11年	1922	川東村外三村学校組合役場		縦帳
B-3-17	廃棄規程綴	大正15年	1926	海部郡川東村役場		縦帳
B-3-18	学校建設二関スル一件書類	(明治8年)	1875	(川東村役場)		縦帳
B-3-19	大正十二年以降児童一銭貯金承諾書綴	大正12年	1923	川東村役場		縦帳 昭和7年まで
B-3-20	児童一銭貯金承諾書綴	大正13年	1924			縦帳 昭和5年まで
B-3-21	新設事業録	(明治32年)	1899	(川東村役場)		縦帳 明治45年まで
B-4-1	地券台帳 海部郡大里村	不明				縦帳 虫損により開帳困難な箇所あり 表紙に朱書で山林とある
B-4-2	字町西、多良越、カツラ神・・・裏町、杉谷、広谷、桜谷、橋谷余口、東谷余口・・・(地券台帳)	不明		不明		縦帳 虫損により開帳困難な箇所あり
B-4-3	明治三十年一月日 荒地免許継年期附与願海部郡川東村大字大里村	明治30年1月	1897	川東村 小川清三代理 同村助役 池内徳蔵		縦帳 表紙に検印あり
B-4-4	明治三十年一月 荒地免許年期明地価査定額 海部郡川東村大字大里村	明治31年1月	1898	徳島県海部郡川東村長 小川清三代理 同村助役 池内徳蔵		縦帳 表紙に検印あり
B-4-5	(浅川村検地帳カ)	不明				縦帳 虫損・燃れあり 付箋多し
B-4-6	明治五壬申年八月 海部郡大里村名負林取調指上帳	明治5年8月	1872	租税課		縦帳 虫損有
B-4-7	海部郡大里村下札帳	末年6月		露口甚吉 外1名	願人共方 村役人共方	縦帳 虫損大
B-4-8	海部郡大里村名負林・・・松原御林之内上林四畝 床銀四匁式分 定請銀壹匁四分	文化9年4月	1812	庄野駒之助 外		縦帳 虫損甚大 B-4-9と合綴
B-4-9	海部郡大里村・・・御検地帳	不明		不明		縦帳 虫損甚大により開帳不可 B-4-8 と合綴
B-4-10	海部郡熟田村名負林下札帳	不明		不明		縦帳 綴紐外れ 虫損有 表紙に「永久保存」と朱書あり
B-4-11	海部郡大里村名負数下札帳	明治4年6月	1871	権少属 小倉本蔵	大里村願人共方 同村役人共方	縦帳 B-4-12・B-4-13と合綴
B-4-12	海部郡大里村名負林下札	明治4年5月	1871	権少属 小倉本蔵 外1名	大里村中 海部郡大里村役人共方	縦帳 B-4-11・B-4-13と合綴 片山字の畠・畑・林・数について記した文書1枚挟み込みあり
B-4-13	海部郡大里村名負林下札	明治4年5月	1871	権少属 小倉本蔵 外1名	大里村中 願人共 海部郡大里村役人共方	縦帳 B-4-11・B-4-12と合綴 絵図(検地の順序)の挟み込みあり
B-4-14	海部郡吉野村御検地帳	不明		不明		縦帳 虫損・燃れあり
B-4-15	文久二年戌八月 海部郡大里村林開下札	文久2年8月	1862	山内□兵衛 外2名	名負之者方 右 村五人組共方	縦帳 虫損大により開帳困難な箇所あり
C-1	浅川村議会々議録綴	昭和23年	1948			昭和23年2月29日から同年12月9日まで綴
C-2	浅川村議会々議録綴	昭和22年	1947			昭和22年2月26日から同年12月22日まで
C-3	復興資金(関)□	(昭和22年より同年24年)	1947	復興部		綴り 紙劣化
C-4	村会議決着綴	(昭和21年度から同23年度まで)	1946	海部郡川上村役場		綴り
D-1	文化九年海部郡吉野村棟付人数御改見懸銀帳	文政3年12月	1820	楠本官八 外2名		縦帳 虫損有
D-2	(文化九申年海部郡小川村棟付人数御改帳)	天保6年11月	1835	美馬勝蔵 外2名		縦帳 文化九申年三月海部郡小川村五人組四郎左衛門外4名より増田鐵郎外3名へ提出 題箋なし 表紙に「文化九申年海部郡小川村棟付人数御改帳」と鉛筆書きあり 虫損有 「7」の貼紙あり
D-3	(文化九申年海部郡神野村棟付人数御改帳)	文政2年11月	1819	楠本官八 外2名		縦帳 文化九申年三月海部郡神野村庄屋富田記太郎外3名より増田鐵郎外3名へ提出 題箋なし 表紙に「文化九申年神野村棟付帳」と鉛筆書きあり 虫損有
D-4	文化九申年海部郡浅川浦棟付人数御改帳	嘉永6年12月	1853	高木真蔵 外2名カ 後部欠		縦帳 文化九申年十一月海部郡浅川浦庄屋原田富之丞外6名より増田鐵郎外2名へ提出 後部欠 従来の表紙の前に同様の表記の表紙有 表紙の綴じ紐に「文化九申年海部郡相川村棟付御改御帳」と印刷された紙の挟み込み有
D-5	(文化九申年海部郡浅川村棟付人数御改帳)	文政3年12月	1820	楠本官八 外2名		縦帳 文化九申年三月海部郡浅川村組頭庄屋丸岡記兵衛外4名より増田鐵郎外2名へ提出 表紙欠
D-6	(文化九申年海部郡相川村棟付人数御改帳)	文政2年11月	1819	楠本官八 外3名		縦帳 文化九申年三月海部郡相川村組頭庄屋岡崎夫右衛門外5名より増田鐵郎外3名へ提出 題箋欠



資料番号	表 題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
E-1-1	衣料切符	昭和19年	1944	農商省	春田和子	E-1-1～E-1-2-5 クリアファイルで一括
E-1-2-1	マッチ購入票	昭和18年1月	1943	川東村役場	橋本益一	E-1-1～E-1-2-5 クリアファイルで一括、E-1-2-1～5 綴り
E-1-2-2	配給綿製品購入票	不明		海部織物雑貨小売商業組合		E-1-1～E-1-2-5 クリアファイルで一括、E-1-2-1～5 綴り
E-1-2-3	家庭用塩購入票	昭和18年1月	1943	専売局	徳島県海部郡川東村大字大里 橋本益一	E-1-1～E-1-2-5 クリアファイルで一括、E-1-2-1～5 綴り
E-1-2-4	家庭用加算割当塩購入券	昭和18年1月	1943	(川東村役場)	徳島県海部郡川東村大字大里 橋本益一	E-1-1～E-1-2-5 クリアファイルで一括、E-1-2-1～5 綴り
E-1-2-5	家庭用品購入通帳	昭和23年1月	1948	徳島県	徳島県海部郡川東村 橋本益一	E-1-1～E-1-2-5 クリアファイルで一括、E-1-2-1～5 綴り
E-2	(藩札)	不明				原田英祐氏寄贈
E-3-1	田畠控	嘉永7年2月	1854	長谷氏久 (花押)		縦帳 付箋あり E-3-1～3同封
E-3-2	田畑分地記置物也	弘化2年6月	1845	長谷庄兵衛		横帳 E-3-1～3同封
E-3-3	日和佐御陣屋諸御用日記	文政10年	1827	別家 長谷文吉		表題・作成年・作成者は後付の表紙による E-3-1～3同封
E-4	地券	明治13年6月	1880	徳島県	同部□(同か)村(阿波国海部郡伊座利村) 持主内田直吉	破損
E-5	衣料切符 (7枚)	昭和21年6月	1946	商工省	春田セイ	クリアファイル一括 宛名ほか橋本益一・橋本ハスエ 作成年 昭和18年～24年 7枚の内1枚は農商省・1枚は通商産業省が作成者
E-6	昭和九年九月二十一日颱風海啸災害海部郡記録誌 海部郡町村役場調査	昭和9年12月	1934	岡影明		
E-7	天皇陛下奉迎記	(昭和25年)	1950			綴り
E-8-1	第一類 村條例	不明		川東村役場		E-8-1～2 合綴 明治37年から昭和25年 付箋あり
E-8-2	第二類 村規則規定書	不明		川東村役場		E-8-1～2 合綴 明治37年から昭和25年 付箋あり
E-9	俳匠柳後亭其雪碑改作記録	昭和45年2月	1970	海南町文化財保護委員会		綴り
F-1-1	文化十四年海部郡鞆浦棟附就御改享保九辰年已来所離之者共へ指除人名面帳	文化10年	1813	海部郡鞆浦庄屋 高橋牧太郎 外7名		縦帳 F-1で合綴
F-1-2	文化十四年海部郡鞆浦享保九辰年已後絶人名面帳	文化10年	1813	海部郡鞆浦庄屋 高橋牧太郎 外7名		縦帳 F-1で合綴
F-1-3	文化十四年海部郡鞆浦棟附就御改被仰付小家放帳	文化10年	1813	海部郡鞆浦庄屋 高橋牧太郎 外7名		縦帳 F-1で合綴
F-1-4	文化十四年海部郡鞆浦棟附就御改小家下人書抜帳	文化10年	1813	不明		縦帳 F-1で合綴
F-2-1	享和三年亥六月海部郡四方原村より鞆浦へ養子嫁取居中男女御暇奉願上指出張	享和3年6月	1803	鞆浦庄屋 高橋善兵衛 外4名	後藤熊次 外3名	縦帳 F-2-2と合綴
F-2-2	享和三亥年四月海部郡多良村より鞆浦へ養子并嫁取居中男女御暇奉願上指出張	享和3年4月	1803	鞆浦庄屋 高橋善兵衛 外4名	海部御郡代様御手代 後藤熊次	縦帳 F-2-1と合綴
F-3-1	延宝八年奥浦新開検地帳 (海部郡奥浦新開検地帳)	延宝8年6月	1680	三木与右衛門 外4名		縦帳 表紙に「延宝八年奥浦新開御検地帳 海部郡奥村役場所蔵」の貼紙有 F-3で合綴
F-3-2	阿波御国海部郡奥浦新開御検地帳	天和3年11月	1683	近藤長兵衛 外3名		縦帳 表紙に「天和三年御帳」の貼紙有 F-3で合綴
F-3-3	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	元禄2年5月	1689	多田源右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「元禄二年」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-4	阿波御国海部郡奥浦新開御検地帳	元禄3年11月	1690	近藤長兵衛 外4名		縦帳 表紙に「元禄三年御帳」の貼紙有 F-3で合綴
F-3-5	(海部郡奥浦新開御検地帳)	元禄9年12月	1696	多田分右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「元禄九年御帳」の貼紙有 F-3で合綴
F-3-6	(海部郡奥浦長左衛門新開御検地帳)	元禄9年12月	1696	多田分右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「元禄九年」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-7	(海部郡鞆浦二而同浦与兵衛被下開地御検地帳)	宝永2年4月	1705	東条清左衛門 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「宝永貳年」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-8	(海部郡鞆浦二而同浦善兵衛被下開地御検地帳)	宝永2年4月	1705	東条清左衛門 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「宝永貳年 善兵衛切田帳」の貼紙有り F-3で合綴
F-3-9	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	宝永2年4月	1705	三木繁右衛門 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「宝永貳年」の貼紙有り 内に貼紙5名・年貢算用書1通あり F-3で合綴
F-3-10	阿波御国海部郡奥浦新開御検地帳	宝永4年3月	1707	東条弥次右衛門 外2名		縦帳 表紙に「宝永四年御帳」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-11	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	宝永5年11月	1708	伊月惣左衛門 外2名		縦帳 題箋なし 中に貼紙1枚挟み込み F-3で合綴
F-3-12	(海部郡奥浦敷開御検地帳)	正徳2年3月	1712	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「正徳二年奥浦新開御検地帳 海部郡鞆奥村役場所蔵」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-13	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	正徳3年4月	1713	近藤國十郎 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「正徳3年」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-14	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	正徳5年11月	1715	伊月五太夫 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に墨書で「正徳五年」と有り、中に5枚の貼紙を挟み込み F-3で合綴
F-3-15	阿波御国海部郡奥浦新開御検地帳	正徳2年11月	1712	伊月五太夫 外3名		縦帳 表紙に「正徳五年御帳」の貼紙あり 中に「正徳五年奥浦新開御検地帳 海部郡鞆奥村役場所蔵」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-16	阿波御国海部郡奥浦新開御検地帳	享保4年11月	1719	塩田久太夫 外2名		縦帳 表紙に「享保四年御帳」の貼紙あり F-3で合綴
F-3-17	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	享保6年11月	1721	多田野七郎 外3名		縦帳 題箋なし F-3で合綴
F-4	鞆浦地面ノ高寛書	元和9年9月	1623			縦帳 表題は海部郡鞆奥村役場が付けたもの 原題は「海部 壱人二付七拾五歩宛被下御帳之ひかゝ」
F-5	鞆浦見懸人名面帳	嘉永元年4月	1848	庄屋・年寄・五人与	奥浦組頭庄屋 志方安蔵	縦帳 表題は海部郡鞆奥村役場が付けたもの 原題は「海部 郡鞆浦棟附御改二付見懸人取調名面指上帳 控」
F-7	鞆奥町誌	明治45年1月起稿	1912			縦帳 (大正12年1月1日より鞆奥村を鞆奥町と改称)
F-8	海部郡下灘 郷土読本	昭和24年5月	1949	笠井藍水		左袋とじ ガリ刷り ※袋に入る 袋に「海部町役場蔵書」とある
F-9-1	阿波御国海部郡中山村御検地帳	貞享元年3月	1684	池田左市兵衛 外3名		縦帳 大正二年九月一日付「徳島県物産陳列場 民政資料展覧会」の出品票あり F-9-2と後世合綴 虫損有
F-9-2	阿波御国海部郡中山村新開御検地帳	元禄9年12月	1696	多田万右衛門 外3名		縦帳 F-9-1と後世合綴 虫損有
F-10-1	(享保十二年 大井村棟付改帳)	享保12年6月	1727	岩田茂左衛門 外2名		縦帳 題箋なし 虫損有
F-10-2	文化九申年海部郡大井村棟付人数御改帳	文政6年12月	1823	原與右衛門 外2名		縦帳 虫損有
F-10-3	文化九申年海部郡大井村棟附御改御支配外帳	文政6年12月	1823	原與右衛門 外2名		縦帳 虫損有
F-10-4	享保十式末年三月十五日海部郡大井村棟附御改付小家得心帳	享保12年3月	1727	海部郡大井村与頭庄屋 寛右衛門 外3名	岩田茂左衛門	縦帳 虫損大

資料番号	表 題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
F-10-5	享保拾貳年未三月十五日海部郡大井村棟付御改二付諸土・御譜代帳	享保12年6月	1727	岩田茂左衛門		縦帳 虫損大
F-11-1	寛文5年 (吉田村新開検地帳)	寛文5年	1665			縦帳 題箋なし 虫損甚大に付開帳不可 F-11で後世合綴
F-11-2	(吉田村新開検地帳)	寛文10年12月	1670	伊月六郎兵衛 外2名		縦帳 題箋なし 虫損甚大 F-11で後世合綴
F-11-3	(吉田村新開検地帳)	延宝2年	1674			縦帳 題箋破損 虫損甚大に付開帳難 F-11で後世合綴
F-11-4	海部郡吉田村新開御検地帳	元禄7年	1694			縦帳 虫損甚大に付開帳不可 F-11で後世合綴
F-11-5	阿波御国海部郡吉田村新開御検地帳	寛保2年11月	1742	川端実右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大に付開帳不可 F-11で後世合綴
F-11-6	(吉田村新開検地帳)	享保3年	1718			縦帳 虫損甚大に付開帳不可 F-11で後世合綴
F-11-7	(吉田村新開検地帳)	享保10年11月	1725	多田源右衛門		縦帳 表紙に「享保十年開」とある 虫損甚大に付開帳不可 F-11で後世合綴
F-11-8	阿波御国海部郡吉田村御数下見北川貞右衛門被下御検地帳	寛政9年11月	1797	三木直蔵 外2名		縦帳 虫損甚大 F-11で後世合綴
F-11-9	阿波御国海部郡吉田村数開御検地帳	宝暦9年	1759			縦帳 虫損甚大に付開帳不可 F-11で後世合綴
F-12-1	(富田村新開御検地帳)	承応4年5月	1655	立木四郎兵衛 外5名		縦帳 題箋なし 虫損多 表紙に「承応四年」の貼紙あり 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-2	(富田村新開御検地帳)	寛文元年9月	1661	三木与右衛門 外1名		縦帳 題箋なし 虫損多 表紙に「寛文元年」の貼紙あり 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-3	(海部郡富田・吉田両村新開御検地帳)	寛文4年3月	1664	三木与右衛門 外2名		縦帳 題箋なし 虫損多 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-4	(富田村新開御検地帳)	寛文10年12月	1670	伊月六郎兵衛 外3名		縦帳 題箋なし 虫損多 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-5	(海部郡富田村新開御検地帳)	延宝2年4月	1674	近藤善左衛門 外3名		縦帳 題箋なし 虫損多 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-6	阿波御国海部郡高田村新開御検地帳	延宝5年6月	1677	三木与右衛門 外3名		縦帳 虫損多 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-7	(海部郡富田村新開御検地帳)	延宝8年6月	1680	三木与右衛門 外4名		縦帳 題箋なし 虫損多 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-8	阿波御国海部郡富田村新開御検地帳	元禄2年5月	1689	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損多 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-9	(海部郡富田村新開御検地帳)	元禄7年4月	1694	武市加次兵衛 外3名		縦帳 題箋なし 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-10	(海部郡富田村新開御検地帳)	元禄9年12月	1696	多田分右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-11	阿波御国海部郡富田・吉田村新開御検地帳	元禄13年11月	1700	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-12	(海部郡富田村新開御検地帳)	宝永4年3月	1707	近藤団十郎 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「宝永四年」の記載あり 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-13	阿波御国海部郡富田村新開御検地帳	宝永5年11月	1708	伊月惣左衛門 外2名		縦帳 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-14	(海部郡富田村新開御検地帳)	正徳3年4月	1713	近藤団十郎 外2名		縦帳 題箋なし 表紙に「正徳三年」の貼紙あり 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-15	阿波御国海部郡富田村新開御検地帳	正徳5年11月	1715	伊月五太夫 外3名		縦帳 表紙に「正徳五年」の貼紙あり 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-16	阿波御国海部郡富田村新開御検地帳	享保6年11月	1721	川端実右衛門 外2名		縦帳 題箋横に「享保六年開」の記載あり 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-17	(海部郡富田村新開御検地帳)	享保10年3月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-18	阿波御国海部郡富田村新開御検地帳	寛保2年12月	1742	川端実右衛門 外3名		縦帳 題箋横に「寛保貳戌年」の貼紙あり 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-12-19	阿波御国海部郡富田村小松分御検地帳	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳 題箋横に「延享四年」の貼紙あり 虫損大 末尾に「古帳三拾七冊之内 延享四卯年三月日」の記載あり F-12で合綴
F-13	海部郡之内鞆浦棟附人改御帳	延宝2年12月	1745	岩田関右衛門 外2名		縦帳 「鞆浦棟附人改帳」と後世の海部郡鞆奥町役場の付けた表紙あり
G-1	海部郡奥浦名負林御検地帳	天保2年2月	1831	太田半左衛門 外2名		縦帳
G-2-1	海部郡鞆浦名負林下札帳	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二 外2名	鞆浦願人共	縦帳 G-2-1～4は鞆奥町役場時代の合綴
G-2-2	海部郡鞆浦名負数下札帳	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二 外2名	鞆浦役人共	縦帳 検地帳の一部 開帳難
G-2-3	海部郡奥浦名負林下札帳	明治4年6月	1871	准史生 木内扶二 外2名	奥浦願人共	縦帳
G-2-4	海部郡奥浦名負数御下札帳	明治4年4月	1871	准史生 木内扶二 外2名	奥浦願人共	縦帳 検地帳の一部 開帳難
G-3	阿波御国海部郡富田村御検地帳	延享4年3月	1747	塩田平左衛門 外4名		縦帳 虫損有
G-5-1	阿波御国海部郡大井町御検地帳	元禄4年12月	1691	近藤長兵衛 外5名		縦帳 虫損大 表紙に「元禄四年」の後世の書き込み G-5-1・2は後世の合綴
G-5-2	海部郡大井村御検地御帳	元禄4年12月	1691	近藤長兵衛 外5名		縦帳 虫損有 G-5-1・2は後世の合綴
G-6-1	(寛文八年奥浦検地帳)	寛文8年3月	1668	山内左近右衛門 外5名		縦帳 表紙欠 G-6で合綴
G-6-2	(海部郡奥浦上毛帳)	寛文8年3月	1668	山内左近右衛門 外5名		縦帳 題箋欠 G-6で合綴
G-6-3	(海部郡奥浦御検地帳)	寛文8年3月	1668	山内左近右衛門 外5名		縦帳 題箋欠 表紙に「寛文八年古田昌」の貼紙あり G-6で合綴
G-6-4	海部郡奥浦長左衛門開御検地帳	寛文8年10月	1668	伊月六郎兵衛 外1名		縦帳 表紙に「寛文八年長左衛門開」の貼紙あり G-6で合綴
G-6-5	(奥浦長左衛門開)	寛文10年11月	1670	伊月六郎兵衛 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「寛文拾年御帳 長左衛門開」の貼紙あり G-6で合綴
G-6-6	(鞆浦検地帳)	寛文10年12月	1670	伊月六郎兵衛 外3名		縦帳 題箋なし 大小3枚の貼紙挟み込み G-6で合綴
G-7-1	(海部郡吉田村御検地帳)	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳 題箋なし 虫損大 表紙に「寛延四年(延享□□も含む) 吉田村検地帳」とある G-7-2と後世に合綴
G-7-2	海部吉田村仮御検地相附帳	嘉永6年3月	1853	不明		縦帳 虫損甚大のため開帳不可 G-7-1と後世に合綴
G-8-1	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	享保元年11月	1716	阿部忠右衛門 外2名	カ	縦帳 表紙に「享保元年 十」「享保元年」の貼紙2枚あり 虫損甚大のため一部開帳不可 G-8で合綴

資料番号	表 題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
G-8-2	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	享保7年3月	1722	近藤直左衛門 外3名		縦帳 表紙に「享保七年 十一」の貼紙あり 虫損大 G-8で合綴
G-8-3	阿波御国海部郡大井村之内姫村新開御検地帳	享保18年11月	1733	武市長左衛門 外3名		縦帳 表紙に「享保十八年姫村分」の貼紙あり 虫損あり G-8で合綴
G-8-4	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	享保18年11月	1733	武市長左衛門 外3名		縦帳 表紙に「享保十八年 十二」の貼紙あり 虫損あり G-8で合綴
G-8-5	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	享保21年3月	1736	阿部伊右衛門 外3名		縦帳 表紙に「享保貳拾壹年 十三」とある 虫損多 G-8で合綴
G-8-6	阿波御国海部郡大井村之内姫村新開御検地帳	享保21年3月	1736	阿部伊右衛門 外3名		縦帳 表紙に「享保貳拾壹年三 姫村分」とある 虫損甚大 G-8で合綴
G-8-7	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	延享3年10月	1746	阿部藤助 外3名		縦帳 表紙に「延享三年 十四」「延享三年」の2つの貼紙あり 虫損甚大 G-8で合綴
G-8-8	阿波御国海部郡大井村御藪下見北川貞右衛門被下畠御検地帳	寛延3年11月	1750	田村弥左衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 G-8で合綴
G-8-9	阿波御国海部郡大井村之内姫・能山村新開御検地帳	宝暦9年11月	1759	塩田宇助 外3名		縦帳 虫損甚大 表紙に「宝暦九年四 姫田分」の貼紙あり G-8で合綴
G-8-10	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	宝暦9年11月	1759	塩田宇助 外3名		縦帳 虫損甚大 表紙に「宝暦九年 十五」の貼紙あり G-8で合綴
G-8-11	(海部郡大井村新開御検地帳)	宝暦12年2月	1762	吉成久次兵衛 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「宝暦十二年」の貼紙あり 虫損甚大 G-8で合綴
G-8-12	阿波御国海部郡大井之内姫村新開御検地帳	宝暦12年2月	1762	吉成久次兵衛 外3名		縦帳 虫損甚大 帳の開閉難 G-8で合綴
G-8-13	海部郡大井村名負林御検地帳	文化11年10月	1814	山下伊賀左衛門 外1名		縦帳 虫損甚大 G-8で合綴
G-8-14	海部郡大井村山林名負下札帳	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二 外1名	大井村願人共	縦帳 虫損甚大 G-8で合綴
G-9-1	(海部郡野江村検地帳)	元禄4年12月	1691	近藤長兵衛 外5名		縦帳 虫損甚大 一部不開 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-2	海部郡野江村陸田傍示(検地帳)	寛保3年12月	1743	武市長左衛門 外2名		縦帳 虫損甚大にて不開 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-3	阿波御国海部郡野江村新開御検地帳			武市長左衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 一部不開 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-4	阿波御国海部郡野江村新開御検地帳	享保18年11月	1733	武市長左衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 一部不開 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-5	阿波御国海部郡野江村新開御検地帳	寛延2年11月	1749	阿部藤助 外3名		縦帳 虫損甚大 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-6	阿波御国海部郡野江村新開御検地帳	享保6年11月	1721	近藤官左衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-7	(野江村新開御検地帳)	宝永2年4月	1705	東条清左衛門 外1名		縦帳 虫損甚大 題箋欠 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-8	阿波御国海部郡野江村新開御検地帳	宝暦9年11月	1759	塩田宇助 外3名		縦帳 虫損甚大 G-9-1～8は後世の合綴
G-9-9	海部郡野江村新開御検地帳	元禄9年12月	1696	多田分右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大 題箋はすれ
G-10	海部郡野江村仮御検地相附帳	嘉永5年11月	1852	三木繁左衛門 外3名		縦帳 虫損大
G-11-1	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-2	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-3	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-4	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-5	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-6	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-7	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-11-8	(吉田村新開御検地帳)					縦帳 虫損甚大 不開 題箋はすれ G-11-1～8は後世の合綴
G-12-1	海部郡鞆浦上毛帳	寛文5年3月	1665	三木与右衛門 外2名		縦帳 題箋はすれ G-12-1・2は鞆奥町役場時代の合綴
G-12-2	海部郡之内鞆浦御検地帳	寛文5年3月	1665	三木与右衛門 外2名		縦帳 題箋はすれ 虫損少 G-12-1・2は鞆奥町役場時代の合綴
G-13-1	海部郡中山村藪開御検地帳	元禄13年11月	1700	阿部忠右衛門 外1名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴 題箋はすれ 表紙に「元禄十三年」の貼紙
G-13-2	海部郡中山村新開御検地帳	元禄2年5月	1689	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損大 題箋はすれ G-13-1～12は川西村役場時代の合綴
G-13-3	海部郡中山村新開御検地帳	享保6年12月	1721	近藤官左衛門 外3名		縦帳 虫損大 題箋はすれ G-13-1～12は川西村役場時代の合綴 表紙に「享保六年」の貼紙
G-13-4	阿波御国海部郡中山村新開御検地帳	享保3年2月	1718	龜田三郎兵衛 外3名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴
G-13-5	阿波御国海部郡中山村新開御検地帳	享保12年3月	1727	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴
G-13-6	海部郡中山村新開御検地帳	宝永7年2月	1710	阿部忠右衛門 外3名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴 題箋はすれ 表紙に「宝永七年」の貼紙
G-13-7	海部郡中山村新開御検地帳	元禄16年6月	1703	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴 題箋はすれ 表紙に「元禄十六年」の貼紙
G-13-8	海部郡中山村新開御検地帳	正徳4年3月	1714	龜田八郎左衛門 外2名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴 題箋はすれ
G-13-9	海部郡中山村仮御検地帳	嘉永6年4月	1853	三木繁右衛門外3名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴
G-13-10	海部郡中山村新開御検地帳	宝永4年3月	1707	近藤国十郎 外2名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴 題箋はすれ 表紙に「宝永四年」の貼紙
G-13-11	海部郡中山村傍示人別帳	元文5年3月	1740			縦帳 虫損少し 後欠 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴
G-13-12	海部郡中山村新開御検地帳	元禄4年12月	1691	加山忠左衛門 外2名		縦帳 虫損大 G-13-1～12は川西村役場時代の合綴
G-14-1	海部郡鞆浦仮御検地相附帳	嘉永5年11月	1852	三木繁右衛門 外3名		縦帳 G-14-1・2は鞆奥町役場時代の合綴
G-14-2	海部郡鞆浦仮御検地相附帳	嘉永5年11月	1852			縦帳 G-14-1の写 G-14-1・2は鞆奥町役場時代の合綴
G-15-1	海部郡大井村之内能山村御検地帳	享保元年11月	1716	阿部忠右衛門 外3名		縦帳 虫損大 G-15-1・2は後世の合綴
G-15-2	阿波御国海部郡大井村御検地帳	寛政10年3月	1798	三木直蔵 外1名		縦帳 虫損大 G-15-1・2は後世の合綴
G-16	海部郡富田・吉田御書抜御検地帳写	慶応2年3月(写)	1866			縦帳 延享四年 本村傍示分、延享四年 富田村小松分、宝暦九年 富田村新開検地帳、寛政九年 富田村検地帳(虫損有)、宝暦九年 吉田村數開検地帳、寛政九年 吉田村検地帳、文政十年 吉田村書抜帳、天保十二年 吉田村書抜帳
G-17-1	阿波御国海部郡之内姫・能山両村	寛永11年6月	1634	久米六兵衛 外		縦帳 虫損甚大
G-17-2	海部郡大井村新開御検地帳	元禄7年4月	1694	武市加次兵衛 外3名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-17-3	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	元禄9年12月	1696	三木繁右衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-17-4	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	元禄11年12月	1698	武市源太夫 外3名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-17-5	海部郡大井村新開御検地帳	元禄16年6月	1703	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-17-6	海部郡大井村新開御検地帳	宝永4年3月	1707	東条弥次右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
G-17-7	阿波御国海部郡大井村新開御検地帳	正徳2年3月	1712	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大



資料番号	表 題	作成年月日	西暦	作成者	宛者	備考
G-17-8	海部郡大井村新開御検地帳	正徳3年4月	1713	近藤団十郎 外2名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-18-1	阿波御国海部郡富田村御検地帳 (寛政9年)	寛政9年	1797			縦帳 虫損甚大 不開 G-18-1～4は後世の合綴
G-18-2	海部郡富田村御検地帳					縦帳 虫損有 G-18-1～4は後世の合綴
G-18-3	海部郡富田村仮御検地相附帳	嘉永6年3月	1853			縦帳 虫損大 G-18-1～4は後世の合綴
G-18-4	(海部郡富田村検地帳)	寛永11年6月	1634			縦帳 虫損大 G-18-1～4は後世の合綴 一部破損
G-19-1	海部郡櫛川村御検地帳	元禄13年5月	1700	伊月次左衛門 外4名		縦帳 虫損有 題箋欠 G-19-1～3は後世の合綴
G-19-2	阿波御国海部郡櫛川村御検地帳	安永7年3月	1778	岸 熊助 外2名		縦帳 虫損有 G-19-1～3は後世の合綴
G-19-3	海部郡櫛川村仮御検地帳相附帳	嘉永5年11月	1852	三木繁右衛門 外3名		縦帳 虫損有 G-19-1～3は後世の合綴
G-20-1	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	宝永4年3月	1707	近藤団十郎 外2名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-20-2	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	正徳2年3月	1712	阿部忠左衛門 外2名		縦帳
G-20-3	海部郡櫛川村新開御検地帳	正徳4年3月	1714	亀田八郎左衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
G-20-4	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	正徳5年11月	1715	伊月五太夫 外3名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-20-5	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	享保10年3月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-20-6	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	享保21年3月	1736	阿部伊右衛門 外3名		縦帳 貼紙有
G-20-7	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	延享3年10月	1746	阿部勝助 外3名		縦帳 貼紙有
G-20-8	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	元文2年11月	1737	阿部伊右衛門 外2名		縦帳 貼紙有
G-20-9	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	元文5年3月	1740	岸岡左衛門 外3名		縦帳 貼紙有
G-20-10	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	寛政9年11月	1797	三木直蔵 外2名		縦帳 貼紙有
G-21-1	阿波御国海部郡野江村敷開御検地帳	寛永2年4月	1625	三木繁右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
G-21-2	阿波御国海部郡櫛川村新開御検地帳	寛延2年11月	1749	阿部藤助 外3名		縦帳 虫損甚大 挿入文書あり
G-21-3	(海部) 郡櫛川村名負林下札帳	明治4年6月	1871	准史生 木内扶二 外2名	海部郡櫛川村役人共方	縦帳
G-21-4	海部郡中山村山林御検地帳	明治4年6月	1871	史生 今井峰蔵 外1名	海部郡中山村願人共方・同村役人共方	縦帳 虫損有
G-21-5	海部郡中山村敷御検地帳	明治4年5月	1871	史生 今井峰蔵 外1名	海部郡中山村願人共方・同村役人共方	縦帳
G-21-6	櫛川村之内拾六ヶ村名負林帳	明治5年8月	1872	海部郡第四小区用掛西田定一		縦帳
G-21-7	海部郡櫛川村名負林取調指上帳	明治5年8月	1872	海部郡第四小区用掛西田定一	名東縣御廳	縦帳 挿入文書あり 租税課の奥書あり
G-21-8	櫛川村御林新出来御林共御受年限取調帳	文久3年6月	1863	櫛川村役人	奥村甚内	縦帳 控
G-21-9	海部郡古田村敷開御検地帳	宝永2年4月	1705	三木繁右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
G-21-10	海部郡中山村古新年限請林・名負林・野山町敷并御林中二□□安宅御林木并御役所御帳付木共相調へ奉指上帳	文政6年7月	1823			縦帳
G-21-11	阿波御国海部郡吉田村御敷下見北川貞右衛門被下開地御検地帳	延享4年3月	1747	武市長左衛門 外4名		縦帳 虫損甚大 貼紙有
G-21-12	海部郡高園村敷開御検地帳	正徳2年3月	1712	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
G-21-13	海部郡芝村名負林下札帳	(明治4年頃)	1871	廣田三郎 外1名	海部郡芝村願人共方	縦帳 虫損甚大
G-21-14	海部郡高園村名負林取調指上帳	明治5年8月	1872	海部郡第四小区用掛西田定一	名東縣御廳	縦帳 貼紙・挿入文書あり
G-21-15	海部郡大井村名負林取調指上帳	明治5年8月	1872	海部郡第四小区用掛西田定一	名東縣御廳	縦帳 虫損甚大 貼紙あり 租税課の奥書あり
G-21-16	海部郡大井村敷名負下札帳	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二 外1名	大井村願人共方・同村役人共方	縦帳 虫損甚大 貼紙あり
G-21-17	海部郡姫・能山村仮御検地相付帳	嘉永6年3月	1853	三木繁右衛門 外3名		縦帳 貼紙あり
G-21-18	海部郡野江村名負林下札帳	明治4年6月	1871	准史生 木内扶二 外2名	野江村中願人共方	縦帳
G-21-19	海部郡高園村名負林下札帳	明治4年6月	1871	准史生 木内扶二 外2名	高園村中願人	縦帳 虫損甚大
G-21-20	阿波御国海部郡野江村敷開御検地帳	享保10年2月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 虫損甚大
G-21-21	阿波御国海部郡野江村御検地帳	寛政10年3月	1798	三木直蔵 外2名		縦帳 虫損甚大
G-21-22	阿波御国海部郡野江村新開御検地帳	宝永4年3月	1707	近藤団十郎 外2名		縦帳 虫損甚大 貼紙あり
G-21-23	海部郡富田村敷開御検地帳	宝永3年4月	1706	三木繁右衛門 外1名		縦帳 虫損甚大
G-21-24	阿波御国海部郡富田村敷開御検地帳	正徳2年3月	1712	阿部忠右衛門 外2名		縦帳 虫損甚大
G-21-25	海部郡富田村名負林下札帳	明治4年5月	1871	准史生 木内扶二 外1名	願人共方	縦帳 貼紙あり
G-22	(譲り証文一括)	享保11年～明治7年	1726			鞆奥町 (1923～1955) 時代に編綴している
G-23-1	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	享保10年3月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 虫損有 G-23で合綴 ※海部郡鞆奥町役場よりG-23の表紙が付けられ、そこに「鞆浦・奥浦新開御検地帳」の表題あり
G-23-2	(海部郡奥浦新開御検地帳)	享保10年2月	1725	多田源右衛門 外3名		縦帳 後世表紙に「海部郡奥浦御検地帳」「享保十年御帳」の貼紙あり G-23で合綴
G-23-3	(海部郡奥浦新開御検地帳)	享保18年11月	1733	武市長左衛門 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「享保拾八年御帳」の貼紙あり G-23で合綴
G-23-4	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	享保18年11月	1733	武市長左衛門 外3名		縦帳 題箋なし G-23で合綴
G-23-5	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	享保21年3月	1736	阿部伊右衛門 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「享保廿一年」の貼紙あり G-23で合綴
G-23-6	(新開御検地帳 写)	延宝8年～元文5年3月まで	1680	岸岡左衛門外3名 (元文5年)		縦帳 題箋なし G-23で合綴
G-23-7	(海部郡奥浦新開御検地帳)	寛政元年	1789	不明		縦帳 表紙欠 後世鞆奥町役場により表紙が付けられている G-23で合綴
G-23-8	(海部郡奥浦新開御検地帳)	元文5年3月	1740	岸岡左衛門 外3名		縦帳 題箋なし 表紙に「元文五年御帳」の貼紙あり G-23で合綴
G-23-9	(海部郡鞆浦御検地帳)	寛保3年11月	1743	武市長左衛門 外3名		縦帳 題箋なし 3枚の貼紙を挟み込み G-23で合綴
G-23-10	(海部郡鞆浦新開御検地帳)	寛政元年11月	1789	武市長左衛門 外2名		縦帳 題箋なし G-23で合綴
G-23-11	阿波御国海部郡奥浦新開御検地帳	寛政元年11月	1789	武市長左衛門 外2名		縦帳 表紙に「寛文元年御帳」の貼紙あり G-23で合綴

※他に3点の史料あり